

令和 2 年 5 月 27 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02142

研究課題名(和文) アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしてのダークツーリズム

研究課題名(英文) Dark Tourism as Media constructing Memories for Peaces in Asia

研究代表者

遠藤 英樹 (Endo, Hideki)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：00275348

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ダークツーリズムを3つに分類した。それは、「人為的にもたらされた死や苦しみと結びついた場所へのツアー」、「自然によってもたらされた死や苦しみと結びついた場所へのツアー」、「人為的なものと自然の複合的な組み合わせによってもたらされた死や苦しみと結びついた場所へのツアー」である。ただし死や苦しみと結びついた場所であっても、ある場所が「ダークツーリズム」の対象となるのは、観光をめぐる「ローカリティ(地域)の政治性」を抜きにしてはあり得ない。そのことをふまえて、ダークツーリズムが現代のアジア社会において平和の媒体となる可能性がある」と結論づけた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「ダークツーリズム」とは戦争や災害の記憶・歴史を後世に伝え、人類の悲しみや苦しみを理解しようとする観光であるとされる。「ダークツーリズム」研究は、グローバルに拡大したオフショア化された市場の恩恵に浴している人びとの日常をいったんカッコにいれさせ、その状況を再帰的に考え直させ、「他者に寄り添い共生する」観光について考えさせてくれる。本研究の目的は、死や苦しみを背負ってきた他者に寄り添い、大切にするための「ふるまい」を学ぶうえでダークツーリズムが有する豊かな可能性を切り拓くことにある。

研究成果の概要(英文)： In this study, we defined dark tourism as "the act of travel to sites associated with death and suffering", and classified it into three categories such as 1) tour to sites associated with death and suffering caused by human beings, 2) tour to sites associated with death and suffering caused by nature, 3) tour to sites associated with death and suffering caused by mixture of human beings and nature. However, places associated with death and suffering cannot be objects of dark tourism, unless those who are concerned in tourism in the region construct the places as "dark sites to be toured". In this sense, politics in locality is very important in creating tourist gaze for darkness. We conclude that dark tourism could be the media of peace for modern society in Asia.

研究分野：観光社会学

キーワード：ツーリズム ダークネス モビリティーズ 平和の記憶 メディア

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

「ダークツーリズム」とは何か。これについて研究者間でも、まだ一致した定義があるとは言えないものの、戦争、テロ、貧困、差別、災害、政治的弾圧、公害、事故等に関係して、「死や苦しみと結びついた場所を旅する行為」とであるとすると少なくとも定義を共有している。

「ダークツーリズム」という概念を観光研究においてははじめに積極的に用いたのは、雑誌『International Journal of Heritage Studies』に掲載されたジョン・レノンとマルコム・フォーレーによる1996年の論稿「Editorial: Heart of Darkness」においてである。レノンとフォーレーはその後、『Dark Tourism: The Attraction of Death and Disaster』という本を執筆し、この言葉は新たな観光のあり方のひとつとして急速に注目を集めるようになっていった。

その後、海外ではリチャード・シャープリー&フィリップ・ストーン編『The Darker Side of Travel: The Theory and Practice Dark Tourism』、国内では江口信清・藤巻正己編『貧困の超克とツーリズム』や遠藤英樹編『ダークツーリズムという問い』（立命館大学紀要特集号）等の研究成果にみられるように、この研究分野は着実に発展をとげてきた。また、東浩紀編『福島第一原発観光地化計画』等の業績によってメディアにもしばしば取り上げられるようになっていく。

これまで本研究課題グループは、ダークツーリズムに関する様々な研究会を開催し、社会学、地理学、人類学、国際関係学等の人文・社会科学的な視点から考察し、論稿・書籍を出版し、シャープリーをはじめ海外研究者を招聘してきた。こうしたこれまでの研究成果をふまえつつ、「ダークツーリズム」研究を一層深化させることを通じて、日本を含めたアジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしての観光のあり方を模索することとした。

2. 研究の目的

本課題では特に次の3点に的をしばって、ダークツーリズムを研究することを目的とした。

(1) 観光のかたちをとって構築される「社会のダークネス」

何らかの場所が“死や苦しみ”と結びついているならば、その場所が自動的に「ダークツーリズム」の対象となるかという点、決してそうではない。戦跡や災害の被災跡などが保存されていたとしても、観光客が「観光されるべきダークネス」として、そのままの向きを向けるように方向づけられていないのであれば、「ダークツーリズム」の対象になることはない。

たとえ戦跡や災害の被災跡などが保存され、それが歴史的にどれほど重要であったとしても、観光にかかわる人びとが、それを「観光されるべきダークネス」として構築していかない限り、その場所は「ダークツーリズム」の対象になることはない。その意味で、ある場所をダークツーリズムで観光するという行為じたいが、すでに、中立的ではないメッセージを帯びた行為となっている。“死や苦しみ”がそのまま、「ダークツーリズム」の対象となるのではなく、ある国や地域の中で観光にかかわる人びとが、“死や苦しみ”を「観光されるべきダークネス」として構築しようとする、その限りにおいて初めて、ある場所の“死や苦しみ”が「ダークツーリズム」の対象となるのである。

したがって、「ダークツーリズム」研究においては、「それが誰にとってのダークネスなのか（ダークネスでないのか）？」「どのような状況のもとで、どのようなものをダークネスとする必要がある（なかった）のか？」「あるものをダークネスとする（ダークネスとしない）ことで、得られるもの、失うものは何なのか？」などを問うていく必要が生じるであろう。

本研究では、以上のことを、戦争、テロ、貧困、差別、災害、政治的弾圧等に関係する場所が多くみられるタイ、マレーシア、シンガポール、カンボジア、台湾、韓国の海外におけるフィールド調査をふまえて実証的に明らかにする。それは、観光が「社会のダークネス」のメディアとして何を伝えているのかを問う試みとなる。

(2) 観光によって発動・伝達・増幅される「社会的感情」

たとえば鹿児島県知覧特攻平和記念会館を訪問する観光客の中には、特攻で亡くなった若者たちが残した手紙、写真等の展示をみて涙を流す人が少なからずいる。このようにダークツーリズムでは戦争、災害、貧困等、「社会のダークネス」が起こした悲惨さに対する悲しみ、怒り、怖れ等の感情を人びとに生じさせるが、そうした感情は決してニュートラルで自然なものではない。それは、何らかの社会的な要素にコミットし、それを支えていくものである。

ある出来事（例えば特攻）を「ダークネス」として焦点化し、歴史的に重要な出来事に浮上させていくことが社会の一部において求められているがゆえに、それを支える「感情」を発動・伝達・増幅させる装置が要請される。ダークツーリズムとは、こうした機能を有する「感情のメディア」であると言える。

本研究では、「ダークツーリズムがいかなる感情をどのような手段で発動・伝達・増幅させていくのか」「観光客は自らのうちに生じている感情をどのように受けとめているのか」「それが社会のどのような要素にコミットし連結されていくのか」等について、観光客、施設関係者、行政関係者をはじめとする人びとからの多様なインタビューを通じて明らかにしていきたい。

(3) 社会的に抑圧された「死の欲動」の回帰としての観光

観光研究者ドリーナ・マリア・ブーダは論文「The Death Drive in Tourism Studies」におい

て、紛争地域の観光を事例に「ダークツーリズム」を考察している。そこでブーダは、精神分析学者ジークムント・フロイトによる概念「死の欲動」をキーワードとしながら論を展開している。

“死”“苦しみ”は、“生”“喜び”と隣り合わせにあるべきもので、日常性のもとにあるはずのものである。“死”“苦しみ”はつねに“生”“喜び”と相克しながら日常性を形成しているが、現代社会において、“死”や“苦しみ”は否定的なものとして、できるだけ遠くに追いやられ、みえないようにされ、漂白され「抑圧」されている。ダークツーリズムは、そうやって現代社会によって抑圧されたものの代替物として、抑圧された当のものが観光的なかたちをとって回帰してきたのだと位置づけ得る。

「社会的な日常性」の「異化作用」を通じて「非日常性」を創りだし成立する観光は、現代社会が「抑圧」してきた“死”や“苦しみ”を「非日常的なもの」として覗きみる衝動に人々を駆り立てる現象となっている。いま「ダークツーリズム」に注目があつまるようになってきているのは、そのことと深く関係させて考察すべきではないだろうか。

以上のことを観光客に対するインタビューも含めた実証的な調査を通じて、多様な事例をふまえながら詳細に描写したい。こうした研究は今後、現代社会におけるわれわれの“生”（喜び）と“死”（苦しみ）の関係性を考えていくことに寄与するものとなる。

以上のことを問うことで、アジアにおける平和の記憶を紡ぐメディアとしての観光のあり方を模索していくことが、本研究課題の主要な学術的目的である。

3. 研究の方法

本申請課題では、調査フィールドとして、東アジアと東南アジアに焦点を当てる。具体的には①タイ・カンボジアの「東南アジアA」グループ、②マレーシア・シンガポールの「東南アジアB」グループ、③台湾・韓国の「東アジア」グループの3つのグループに分け、ダークツーリズムに関する質的かつ量的な実証的調査を積み重ねた。

これらの国をフィールドに選定した理由としては、これらの国々が、日本の位置するアジア圏において、戦争、テロ、貧困、差別、災害、政治的弾圧等に関係する場所を数多く有していることを挙げることができる。これらの場所は、ダークツーリズムの場所としてバラエティに富むとともに、非常に重要な意義をもつ。

これらの場所について、誰が、何を、いかにして、何（誰）に向けて、「ダークネス」として呈示しようとしているのかを考察すると同時に、そこを訪れた人々に社会的にいかなる感情を発動させようとしているのかを問うた。このことは、これからの未来に向けて、日本を含めたアジアにおける平和の記憶をいかに紡いでいくために、観光がどのように寄与できるのかを示すために決して外せない研究となる。

4. 研究成果

本研究では、ダークツーリズムを「死や苦しみと結びついた場所を旅する行為」と定義したうえで、これを3つに分類した。それは、①「人為的にもたらされた死や苦しみと結びついた場所へのツアー」、②「自然によってもたらされた死や苦しみと結びついた場所へのツアー」、③「人為的なものと自然の複合的な組み合わせによってもたらされた死や苦しみと結びついた場所へのツアー」である。

ただし死や苦しみと結びついた場所であっても、ある場所が「ダークツーリズム」の対象となるのは、観光をめぐる「ローカリティ（地域）の政治性」を抜きにしてはあり得ないことを確認した。すなわちダークツーリズムが、行政、政治家、観光業者、地域住民、メディア産業などの思惑・利害と結びつきつつ、たえず社会的に構築されていることを明らかにすることで、「ダークネス」の「記憶」やその「歴史の継承」が非常に矛盾を孕んでおり多様なものであることを示すことができた。

次に、「ダークツーリズム」がつねに商品化の危険に晒されていることにも言及しつつ、ダークツーリズムが現代のアジア社会に平和の媒体となる可能性があることと結論づけた。そして最終的には、「ダークツーリズム」という枠組みを昇華させつつ、今後「ポリフォニック・ツーリズム」という枠組みをより真摯に模索する必要性があるという新たな研究課題を開拓できた。

<引用文献>

- Buda, D. M. (2015): The death drive in tourism studies. *Annals of Tourism Research*. 50 39-51
- Foley, M and Lennon, J. (1996). Editorial: Heart of darkness. *International Journal of Heritage Studies*. 2(4) 195-197
- Lennon, J. and Foley, M. (2010). *Dark tourism: The attraction of death and disaster*. Cengage Learning.
- Sharpley, R. and Stone, P. eds. (2009). *The Darker side of travel: The theory and practice of dark tourism*. Channel View Publications.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 121号
2. 論文標題 他者に寄り添い共生するゲームとしての「ダークツーリズム」 「ダークツーリズム」から「ポリフォニック・ツーリズム」へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 5-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤巻正己	4. 巻 121号
2. 論文標題 <観光のまなざし> が向けられる <ダークな記憶装置> としての日本統治期の建造物と旧 <眷村> 台湾のツーリズムスケープ瞥見（1）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 33-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 薬師寺浩之	4. 巻 42巻
2. 論文標題 観光倫理研究と教育の発展に向けた一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域創造学研究（奈良県立大学研究季報）	6. 最初と最後の頁 27-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 薬師寺浩之	4. 巻 121号
2. 論文標題 第二次世界大戦の戦跡における日本人観光者のダークツーリズム経験 タイ・カンチャナブリの事例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 129-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Junwoo HAN & Bokyoung KANG	4. 巻 121号
2. 論文標題 Dark Tourism of an Ongoing Issue: A case study of the Jeju April 3rd Incident, Korea	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 199-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saori HAGAI	4. 巻 121号
2. 論文標題 Carving out a Space for Alternative Voices through Performing Arts in Contemporary Cambodian Tourism; Transformation, Transgression and Cambodia's first gay dance company	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 77-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 轟博志	4. 巻 121号
2. 論文標題 韓国の旧開港場に投影された「日本」 当時の都市計画と現代の観光計画の間で	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 166-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 麻生将	4. 巻 666
2. 論文標題 近代日本におけるキリスト教と国家神道	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 163-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 観光をめぐる「社会空間」としてのデジタル・メディア メディア研究の移動論的転回	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 51-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤巻正己	4. 巻 119
2. 論文標題 チャイナタウンはもはや"チャイナタウン"ではない! "外国人労働者の街"だ! クアラルンプルの<ツーリズムスケープ>瞥見	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 29-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 轟博志	4. 巻 10
2. 論文標題 朝鮮時代古地図に現れた古代都市の痕跡に関して(韓国語)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the Korean Research Association of Old Maps	6. 最初と最後の頁 59-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 葉師寺浩之	4. 巻 20(9)
2. 論文標題 福祉の現場から 国際ボランティアツーリズムが支援地域にもたらす影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 51-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 韓準祐	4. 巻 30
2. 論文標題 観光まちづくりにおける地域住民の主体性の所在 滋賀県高島市新旭町針江集落を事例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館地理学	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 韓準祐・柳銀珠	4. 巻 11
2. 論文標題 身体障害者の観光における経済的阻害要因に関する考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 四本幸夫・韓準祐・畠田展行	4. 巻 11
2. 論文標題 地方自治体の観光まちづくりの取り組みと課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要	6. 最初と最後の頁 73-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 656
2. 論文標題 パフォーマティブなダークツーリズムの可能性 「パフォーマティヴィティ」概念に関する批判的検討を通じて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 220-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤英樹	4. 巻 128
2. 論文標題 ツーリズム・モビリティーズ研究の意義と論点	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西学院大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 9-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 轟博志	4. 巻 13
2. 論文標題 新羅の幹線駅路とその変化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 海路	6. 最初と最後の頁 15-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 葉師寺浩之	4. 巻 5-2
2. 論文標題 リアリティ充足手段としてのカンボジア孤児院ボランティアツアーにおける演出とパフォーマンス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 観光学評論	6. 最初と最後の頁 197-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 遠藤英樹
2. 発表標題 モビリティから都市研究をとらえかえす 「モビリティ3.0」時代における「都市研究の観光論的転回」
3. 学会等名 観光学術学会第8回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤英樹
2. 発表標題 モバイル=デジタル時代の観光 観光を「脱構築」する研究へ
3. 学会等名 国立民族学博物館・研究課題「グローバル化時代における『観光化/脱・観光化』のダイナミズムに関する研究」共同研究会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hideki ENDO
2. 発表標題 Tourism in Mobile Digital Age: The Japanese Cases of Travelling Material Things
3. 学会等名 2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific, Critical Tourism Studies Asia Pacific(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Koji KANDA
2. 発表標題 The New Mobile Assemblages Caused by Pokemon GO
3. 学会等名 2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific, Critical Tourism Studies Asia Pacific(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroyuki YAKUSHIJI
2. 発表標題 Exploring the Nature of Japanese Orphanage Volunteer Tours in Cambodia
3. 学会等名 10th International Conference Sustainable Niche Tourism(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 薬師寺浩之
2. 発表標題 観光者の審美眼と行動・経験に関する考察 バックパッカー turista とボランティア turista を事例として
3. 学会等名 第34回日本観光研究学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroyuki YAKUSHIJI
2. 発表標題 The Aesthetic Perceptions amongst Japanese Orphanage Volunteer Tour Participants in Cambodia
3. 学会等名 2nd International Conference of Critical Tourism Studies Asia Pacific (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 麻生将
2. 発表標題 近代日本のミッションスクールをめぐる廃校運動とナショナリズム 1930年代の大島高等女学校廃校運動を事例に
3. 学会等名 第70回キリスト教史学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤英樹
2. 発表標題 イノベーションを越えるイノベーション グローバルなうねりの中で加速されていくローカルなイノベーション
3. 学会等名 第8回中日国際セミナー「グローバルシティと地域イノベーション」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤巻正己
2. 発表標題 グローバル都市化するクアラルンプルのランドスケープ/エスノスケープ/ツーリズムスケープの変貌 その地誌的素描
3. 学会等名 人文地理学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神田孝治
2. 発表標題 The various aspects of hospitality in tourist places: A case study of Yoron Island in Japan
3. 学会等名 International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 轟博志
2. 発表標題 Sea road or land road? Silk Road in Korea
3. 学会等名 16th ASIA PACIFIC CONFERENCE（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 轟博志
2. 発表標題 鶴峯使行路の歴史地理学的検討
3. 学会等名 鶴峯『海槎録』再照明学会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 薬師寺浩之
2. 発表標題 銃撃体験というダークツーリズム経験に関する試論
3. 学会等名 観光学会第7回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 韓準祐
2. 発表標題 済州4・3事件をめぐるダークツーリズムに関する試論
3. 学会等名 日本国際文化学会第17回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 韓準祐
2. 発表標題 "Darkness" of the Jeju April 3rd Incident
3. 学会等名 International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Kanda
2. 発表標題 Hospitality and tourist mobility: A case study of Yoron Island in Japan
3. 学会等名 Critical Tourism Studies- Asia Pacific Inaugural Biennial Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳銀珠、韓準祐
2. 発表標題 沖縄本島北部地域の宿泊施設におけるバリアフリー対応の特徴
3. 学会等名 韓国日本近代学会 第35回国際學術学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 橋本和也 [編] (遠藤英樹)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 191
3. 書名 人をつなげる観光戦略 人づくり・地域づくりの理論と実践	

1. 著者名 中西真知子・鳥越信吾 [編著] (遠藤英樹)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 268
3. 書名 グローバル社会の変容 スコット・ラッシュ来日講演を経て	

1. 著者名 須藤廣、遠藤英樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 241
3. 書名 観光社会学 2.0	

1. 著者名 遠藤英樹、橋本和也、神田孝治、寺岡伸悟、山口誠、森正人、須永和博	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 288
3. 書名 現代観光学	

1. 著者名 小山聡子、松本健太郎、山田雄司、松井健人、近藤瑞木、鈴木潤、山口直孝、岡本健、足立元、山本陽子、小林奈央子、内田忠賢、遠藤英樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 344
3. 書名 幽霊の歴史文化学	

1. 著者名 井尻昭夫、江藤茂博、大崎紘一、松本健太郎、平崎真右、岸田芳朗、木村史明、大石貴之、遠藤英樹、河田学、山崎裕行、李艶ベイ、張元、鄭歡、大塚泰造、海野裕、箕輪弘嗣、渡邊憲二、張天波、倉持リツコ、黄碧波、松田貴博	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 フードビジネスと地域	

1. 著者名 ジョン・アーリ、須藤廣、濱野健、高岡文章、藤岡伸明、権ヒョクリン、鈴木涼太郎、堀野正人、岡井崇之、加藤政洋、神田孝治、遠藤英樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 (翻訳) オフショア化する世界	

1. 著者名 朝水宗彦、江村あずさ、韓準祐、ベルラキ・ディーネシュ、周曉飛、郭淑娟、凱和、劉秋、リシャラテ・アピリム	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くんぶる	5. 総ページ数 224
3. 書名 地域観光と国際化	

1. 著者名 遠藤英樹・松本健太郎・江藤茂博編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 メディア文化論 [第2版] 想像力の現在	

1. 著者名 阿部和俊編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 68
3. 書名 都市の景観地理 アジア・アフリカ編	

1. 著者名 谷島貴太・松本健太郎編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 216
3. 書名 記録と記憶のメディア論	

1. 著者名 轟博志	4. 発行年 2017年
2. 出版社 国学資料院(韓国)	5. 総ページ数 166
3. 書名 地籍図で探す聞慶の古道	

1. 著者名 竹内正人・竹内利江・山田浩之編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 284
3. 書名 入門観光学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤巻 正己 (Fujimaki Masami) (60131603)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	
研究分担者	神田 孝治 (Kanda Koji) (90382019)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	
研究分担者	轟 博志 (Todoroki Hiroshi) (80435172)	立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授 (37503)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	羽谷 沙織 (Hagai Saori) (10576151)	立命館大学・国際教育推進機構・准教授 (34315)	
研究分担者	薬師寺 浩之 (Yakushiji Hiroyuki) (70647396)	奈良県立大学・地域創造学部・准教授 (24602)	
研究分担者	韓 準祐 (Han Junyu) (00727472)	多摩大学・グローバルスタディーズ学部・専任講師 (32695)	
研究分担者	麻生 将 (Aso Tasuku) (00707771)	佛教大学・歴史学部・非常勤講師 (34314)	変更：2019年4月1日